

令和3年度 人権学習充実拠点校事業

人権学習 実践事例集

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

はじめに

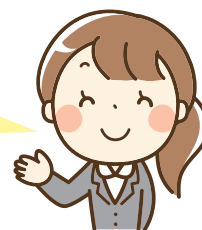
人権学習充実拠点校事業は、拠点校における人権課題を明確にした人権学習の授業公開等によって、人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成を図る取組を促進するとともに、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」や「第3次岡山県人権教育推進プラン」の周知を図り、人権教育の指導方法の充実及び改善を図るものです。

この事例集は令和3年度に拠点校で公開された人権学習の授業をまとめたものです。コロナ禍による影響で教育活動が様々な面で制約を受ける中で実践されました。各校において本事例集を参考にいただき、日々の人権教育の取組に生かしていただきたいと思っております。

目次

「一人一人が輝き、つながり合い、認め合う保育を目指して～幼児理解と保育者の役割を中心に～」	自尊感情の育成	(年少・年中・年長) 高梁市立成羽子ども園	1
友達を思う心	子ども	(第1学年 特別の教科 道徳) 総社市立常盤小学校	7
よく考えて行動する	子ども	(第4学年 特別の教科 道徳) 総社市立常盤小学校	9
よりよく使うインターネット	インターネットによる人権侵害	(第5学年 学級活動) 総社市立常盤小学校	11
パラリンピックから共生社会について考える	障害のある人	(第2学年 特別の教科 道徳) 津山市立勝北中学校	14
性の多様性から学ぶ	性的少数者	(第3学年 特別の教科 道徳) 津山市立勝北中学校	17
地域の高齢者が住みやすい社会を考える	高齢者	(第2学年 総合的な探究の時間) 岡山県立津山東高等学校	20
子どもの権利を尊重した看護について	子ども	(専攻科第2学年 小児看護概論) 岡山県立津山東高等学校	24

掲載されている事例の学習活動や人権教育の視点は、他の教科等にも取り入れることができます。



自尊感情の育成

『一人一人が輝き、つながり合い、
認め合う保育を目指して
～ 幼児理解と保育者の役割を中心に～』



【3歳児（年少）】

1 指導の立場

- ままごとやごっこ遊びの中では、幼児の思いを受け止めたり共感したりして、一人一人が自己発揮しながら遊ぶことができるように関わっていく。そして、遊びに保育者も加わり楽しさに共感したり、友達の姿に関心をもてるような声掛けをしたりして、同じ場で遊ぶ友達の存在や思いを感じ、一緒に過ごす楽しさや心地よさを味わえるようにする。
- 年中児の虫捕りに興味をもち、真似をしてやってみようとする幼児の気持ちを大切に受け止める。また、いきものひろばでは、感じたことや気付いたことを表現している姿を認め、年中児とも関わりがもてるようにしていく。
- 友達や保育者と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができるよう、鬼ごっこなど簡単なルールのある運動遊びを取り入れる。
- 一人一人が意欲をもって身の回りのことに取り組むことができるように、できたことをその都度認める声かけをして、意欲を高め、自信につなげられるようにする。

2 本日のねらいと内容

自分のしたい遊びを楽しむ中で、友達や保育者と同じ場で遊ぶ心地よさを味わう。

- ・友達や保育者と同じ場で遊ぶ心地よさを感じる。
- ・感じたことや思いを自分なりの表現で伝えようとしたり、友達の思いに気付いたりする。
- ・同じ場にいる友達の姿に気付き、興味をもって関わろうとする。

3 評価の観点

幼児が自分の思いを表出したり、友達の思いを感じたりしながら、関わって遊ぶ心地よさを味わうことができていたか。

4 本日の保育と人権教育

保育者が幼児と一緒に遊びを楽しみ、思いに共感することで、幼児自身が大切にされているという実感が持てるようにするとともに、友達と関わりながら遊ぶ楽しさや友達の思いに気付くことができるようにする。

育てたい力

- ◆やりぬく力（自己肯定感、自己有用感）
- ◆伝え合う力（言葉の伝え合い、コミュニケーション力）
- ◆つながる力（協働性、仲間意識・相手意識、認め合い）

5 本日の展開

幼児の活動	◎環境構成 ・保育者の援助 ★人権の視点での援助
<p>○ふれあいタイムをする。</p> <p>○自ら選んだ遊びをする。</p> <p>【ままごと遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草花で色水作りをする。 ・泡でケーキ作りをする。 <p>【きのみランド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケーキを作る。 ・アクセサリーを作る。 <p>【いきものひろば】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫捕りや虫の観察をする。 ・絵本や図鑑を見る。 <p>【運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにごっこ かけっこ <p>○片付けをする。</p> <p>○遊びの振り返りをする。</p>	<p>・幼児が安心して参加できるように、不安な様子の幼児には保育者が傍で支援し一緒に楽しむことができるようにする。また、異年齢児に親しみをもてるようにペアになって行う遊びを取り入れる。</p> <p>◎幼児が思いを表出しながら、さまざまなイメージをもって遊びを楽しめるように、幼児の興味・関心に沿ったコーナーを設ける。</p> <p>★幼児のイメージや気持ちを受け止めるとともに、思いや楽しさに共感し、満足感を味わえるようにする。また、友達に関心をもったり、友達の思いに気付いたりすることができるようになる。</p> <p>・やりたい遊びを見つけにくい幼児や、友達との関わりができていない幼児には、気持ちを引き出しながら一緒にやりたい遊びを見つけることができるようにする。</p> <p>・特別な支援を要する幼児には、コーナーの近くに興味のある用具や玩具を用意し、友達の存在を感じながら遊べるように援助する。</p> <p>◎秋の草花を使った色水作りやごちそう作りでは、できるだけ園庭や園周辺の草花を活かすようにする。</p> <p>・幼児が試したい材料を一緒に考えたり、探したりする。</p> <p>◎年長児のきのみランドに刺激を受け、やってみたい思いが高まることから、必要に応じて3歳児が落ち着いて遊べる場をきのみランドの近くに用意する。</p> <p>・保育者が一緒に遊びのコーナーへ行き、声を掛けたり遊び方を尋ねたりして、やってみたい気持ちをもてるようにする。</p> <p>◎飼育ケースや絵本、図鑑など、3歳児にも使いやすく分かりやすい物を準備する。</p> <p>・年中児が餌やりや掃除などを行っている様子を見て高まった、やってみたいという思いを受け止める。できることを一緒に行うことで、生き物を大切にしようとする気持ちをもてるようにする。</p> <p>◎簡単なルールで遊べる場を設け、友達や保育者と一緒に思い切り体を動かして遊ぶ心地よさを感じることができるようになる。</p> <p>・自分から片付けをする姿をしっかりと認める声掛けをし、自信や意欲につながられるようにする。</p> <p>★思いを受け止めたり共感したりして、安心して思いを伝えることができる温かい雰囲気をつくることで、話を聞いてもらえた満足感を味わい、大切にされている実感をもてるようにする。</p> <p>★遊びの場面での友達との関わりなどを保育者が紹介し、友達の遊びの様子に関心をもてるようにする。また、幼児同士で作った物を見せ合ったり楽しい思いを伝え合ったりして、「明日もしたい」「一緒に遊びたい」という意欲をもてるようにする。</p>

【4歳児（年中）】



1 指導の立場

- 幼児の気付きや頑張りを認めるようにする。また、ごっこ遊びをしている姿を受け入れ、保育者も一緒に遊びに参加したり、幼児と一緒に必要な物を用意したりして、幼児が保育者や友達と関わって遊ぶ楽しさを感じられるようにする。
- 虫への興味や関心がより高まるように調べたり、自由に観察したりすることができる環境を幼児と一緒に整えるようにする。また、気付きや知っていることを保育者や友達に聞いてもらえる喜びを感じられるようにするために、幼児のつぶやきを大切に受け止めるようにする。
- 思いや考えを友達と伝え合おうとしている姿を見守る。トラブルが生じた時には、一緒に話し合い、どうしたらよいか幼児同士で考える場を設ける。
- 幼児の思いや気持ちに寄り添いながら、共感していく。また、幼児の頑張りや工夫したことなどを引き出していくことで、友達の良さに気付くことができるようにする。

2 本日のねらいと内容

自分の思いやイメージを出し合いながら、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。

- ・自分の思いや考えを友達に伝えたり、話を聞いたりする。
- ・思いを出し合う中で、友達の思いや気持ちに気付く。
- ・自然物や様々な素材を遊びに取り入れ、工夫して使ったり作ったりする。
- ・簡単なルールのある遊びを友達や保育者と一緒に楽しむ。

3 評価の観点

自分のしたい遊びをする中で、お互いの思いを出し合いながら、友達と関わって遊ぶ楽しさを感じていたか。

4 本日の保育と人権教育

自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたりする幼児の姿を認めることで、友達に聞いてもらう喜びや話を伝える楽しさを感じられるようにするとともに、友達の思いに気付くことができるようにする。

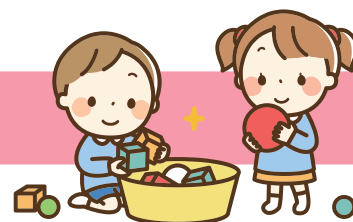
育てたい力

- ◆やりぬく力（自己肯定感、自己有用感）
- ◆伝え合う力（言葉の伝え合い、コミュニケーション力）
- ◆つながる力（協働性、仲間意識・相手意識、認め合い）

5 本日の展開

幼児の活動	◎環境構成 ・保育者の援助 ★人権の視点での援助
○ふれあいタイムをする。	◎グループ別に顔写真や異年齢で触れ合っている場面の写真を掲示しておくことで、異年齢の友達への関心が深まるようにする。 ・保育者が間に入って異年齢児とペアになり、年長児や年少児に親しみをもてるようにする。
○自ら選んだ遊びをする。	◎作った物に名前や印をつけたり、飾る場所を用意したりすることで、幼児が満足感を感じたり、友達が作った物に関心をもったりすることができるようにする。 ★遊びの中で幼児が気付いたことや感じたことを表現している姿を保育者が認め、周りの幼児に伝えることで、友達の言動に関心をもち関わりがもてるようにする。 ★意見の食い違いが見られた時には、相手の思いを落ち着いて聞く場を設けたり代弁したりして、互いの思いを伝え合えるようにする。また、どうしたらよいか幼児と共に考え、友達の思いに気付くことができるようにする。
【きのみランド】 ・アクセサリーを作る。 ・どんぐり転がして遊ぶ。 ・どんぐりごまで遊ぶ。	◎どんぐりやまつぼっくりを用意し、季節の自然物を遊びに取り入れることができるようにする。 ・イメージを膨らませたり自分なりに試している姿を認め、したいことが実現できるように幼児と一緒に考えたり試したりする。
【いきものひろば】 ・虫捕りをする。 ・図鑑で調べたり、見比べたりする。 ・虫の家作りをする。	◎虫の家や自由に観察できるスペースをつくるために必要な物を準備しておき、幼児の要求によってすぐに出せるようにしておく。 ・虫の生態について幼児が気付いたことや不思議に思ったことなどに共感していく。また、虫の家作りをする幼児には、幼児の思いや作りたいイメージを大切に、実現できるように援助する。 ・年少児に生き物の扱い方や気付いたことを自ら伝えている姿を認めるようにする。
【ままごと】 ・草花で色水作りをする。 ・泡でケーキを作る。	◎出来上がったごちそうを使ってままごと遊びを楽しめる場をつくり、友達との関わりがもてるようにする。 ・同じ場で遊ぶ友達の動きや言動に関心があるような言葉がけをすることで、幼児同士がよりよい関わりができるようにする。
【運動遊び】 ・リレーをする。 ・鬼ごっこをする。	◎運動遊びの場では、幼児の要求に応じて場を仕切ったり、ホワイトボードを活用したりして、したい遊びができるようにする。 ・競い合って悔しい思いをしている姿が見られた時には、気持ちに寄り添い、自分なりに折り合いをつけようとする姿を認めていく。
○片づけをする。	・自分から進んで片づけをしている姿を認め、周りの幼児にも知らせることで意欲をもてるようにする。
○振り返りをする。	★幼児の気付きや思いに共感したり、頑張りを認めたりすることで、友達に聞いてもらう喜びや、話をする楽しさを感じられるようにするとともに、友達の思いにも気付くことができるようにする。 ・友達の前で発言することが恥ずかしい幼児には、安心して発言ができるように幼児の気持ちに寄り添い、必要に応じて言葉を補いながら幼児なりの言葉を引き出していく。

【5歳児（年長）】



1 指導の立場

- 自分の思いを伝えたり友達の考えを受け入れたりしながら、一緒に遊びを進める楽しさを味わってほしい。また、他のグループの友達との関わりがもてるようにし、自分とは違う意見や考えがあることを知ったり、友達の良いところや頑張りに気付いたりすることができるようにする。
- 自分たちでしたい遊びができるように、遊び方や作戦など友達と考えを伝え合って主体的に遊びを進められるようにする。トラブルになった時には、自分たちで考えを出し合う姿を見守っていく。場合によっては仲介し、相手の思いに気付かせたい。
- 自分の気持ちを言葉にして伝えようとする姿を認め、一人一人の思いが受け入れられる雰囲気づくりをしていく。幼児から出た考えを全体で共有し、共通の目的に向けて友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを感じてほしい。

2 本日のねらいと内容

友達と目的をもって遊ぶ中で、思いや考えを出し合って一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。

- ・自分たちで役割を分担したりルールを決めたりしながら、主体的に遊びを進める。
- ・友達の話聞き思いや考えを受け止め共感したり、違いに気付いて話し合ったりする。

3 評価の観点

友達と一緒に遊び方を考えたり工夫したりして思いを共有し、一緒に遊びを進めることができたか。

4 本日の保育と人権教育

幼児同士が協力したり話し合ったりして遊びを進めていく場を大切に、思いや考えの違いを知ったり互いの良さに気付いたりすることができるようにする。

育てたい力

- ◆やりぬく力（自己肯定感、自己有用感）
- ◆伝え合う力（言葉の伝え合い、コミュニケーション力）
- ◆つながる力（協働性、仲間意識・相手意識、認め合い）

5 本日の展開

幼児の活動	◎環境構成 ・保育者の援助 ★人権の視点での援助
<p>○ふれあいタイムをする。 ・グループに分かれて、体操やゲームをする。</p>	<p>★年少・年中児の友達に遊び方を知らせたり、優しく関わったりする姿が見られた時は、十分に認めることで思いやりの気持ちをもつことができるようにする。</p>
<p>○自ら選んだ遊びをする。</p> <p>【きのみランド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐり転がしを作る。 ・アクセサリーを作る。 ・ケーキを作る。 ・どんぐりゴマで遊ぶ。 ・木工遊びをする。 <p>【運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼ごっこをする。 ・リレーをする。 	<p>◎幼児が自分なりの思いや、さまざまなイメージをもって遊びを楽しむように、幼児の興味・関心に沿ったコーナーを設ける。</p> <p>★作りたい物を実現しようと試行錯誤する姿や、思いを伝え合って遊びを進める姿を認めることで、遊ぶ楽しさを感じることができるようになる。</p> <p>★友達と協力して遊びを進められるように、一人一人の思いを伝え合ったり話し合ったりすることができる場をつくるように援助する。</p> <p>◎いろいろな種類のどんぐりや木の実を用意し、大きさや形などの違いに気付き、試したり工夫したりすることができるようにする。</p> <p>◎自分たちの作った物を飾るコーナーや、作った物を介して遊べる場を設けることで、作り方を考えたり教え合ったりして遊ぶことができるようにする。また、友達と協力し、思いやイメージを出し合って作ることができるように、長い板や大きい段ボールなどを用意する。</p> <p>・年少・年中児に遊び方や作り方が分かるように、丁寧に知らせたり遊びに誘ったりする年長児の姿を認める。</p> <p>◎自分たちで遊び始めることができるように、必要な用具(バトン・三角コーン等)を取り出しやすい場所に置いておく。</p> <p>・遊び方について相談したり、年中児に遊び方を知らせたりする姿を認め、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わうことができるようにする。</p>
<p>○片付けをする。</p>	<p>・共同で使った場をきれいにしようとする姿や友達と一緒に片付けたりする姿を認め、進んできれいにしようとする気持ちをもつことができるようにする。</p>
<p>○振り返りをする。</p>	<p>◎円形に座ることで友達の顔を見ながら話すことができるようにして、話しやすい温かい雰囲気づくりをしていく。</p> <p>★「今日の遊びの中で、みんなに伝えたいことがある？」と投げかけ、それぞれのコーナーの遊びの様子や経過を具体的に話し合えるようにする。その中で、友達のアイデアの面白さや考え方の違いに気付き、「自分も一緒にやってみたい」と感じたり友達の良さに気付いたりすることができるようにする。</p>

人権課題 子ども

友達を思う心



1 教科等 小学校1年 特別の教科 道徳

2 主題名 友達を思う心 [B-(9) 友情、信頼]

3 ねらいと教材

(1) ねらい 友達を認めて仲よくしていこうとする態度を育てる。

(2) 教材名 「二わの ことり」(出典:東京書籍「新しい道徳I」)

4 主題設定の理由

(1) 指導内容について

本主題は「友達と仲よくし、助け合うこと。」という内容項目を受けたものである。よりよい友達関係を築くには、日常生活の様々な場面において、相手の気持ちになって助け合ったり協力し合ったりして、互いのよさを理解したり認め合ったりするなど、信頼関係を育てることが大切である。

そこで、一緒に活動して楽しかったことや助け合ってよかったことを考えさせながら、友達の立場をよく考えた言動をすることの大切さに気付かせ、友達のよさを認め仲よくしていこうとする態度を育てたい。

(2) 教材について

本教材は、友達の悲しみに気付き、本当の友情とは何かに気付いていく物語である。みそさざいは、やまがらからの誕生日の招待を受けながら、迷いつつも友達に誘われるままうぐいすの家に行ってしまう。しかし、寂しく待っているであろうやまがらを思い、途中からそっと抜け出しやまがらの家へ行く。本教材では、中心場面として、みそさざいがやまがらの家に行った場面を取り上げる。みそさざいが、友達のやまがらの寂しい気持ちに気付くと共に、みそさざいの友達を思う気持ちを深く考えることができるようにする。そのことを通して、友達の気持ちを考えた行動が、やまがらの喜びとみそさざいの充実感につながり、互いがうれしくなることに気付かせたい。

5 本時(本実践)と人権教育

友達と仲よく活動することの楽しさや助け合うよさとともに、友達のことを考えて行動することの大切さに気付き、自分や友達を尊重しようとする態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと・・・★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導・援助の留意点
<p><導入> 1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○友達と仲良くできたことやできなかったことはありますか。 ・一緒に遊ぼうと言われて嬉しかった。 ・自分だけ仲間外れにされて、悲しかった。</p>	<p>・事前のアンケートの結果から、自分の課題として考えることができるようにする。</p>
<p>ともだちとなかよくするためのひみつを見つけよう。</p>		
<p><展開> 2 教材文「二わのこり」を読んで「みそさざい」の気持ちや行動の理由を話し合う。</p> <p>・ワークシートに記入する。 ・ペアで話し合う。 ・全体で話し合う。</p>	<p>○みそさざいは迷っていたのに、どうしてうぐいすの家へ行ったのでしょうか。 ・うぐいすの家の方が明るくきれいだから。 ・やまがらの家は遠いところだから。 ・みんなといっしょのほうがいいから。</p> <p>◎みそさざいは、なぜそっと抜け出してまでやまがらの家へ行ったのでしょうか。 ・一人ぼっちで待っているやまがらがかわいそうだから。 ・やまがらさんも友達だから、自分だけでも早く行ってあげたい。 ・やまがらさんがせっかく誘ってくれたのだから。</p> <p>○みそさざいは、うれしそうなやまがらを見て、どう思ったのでしょうか。 ・やっぱり来てよかった。 ・喜んでくれて、自分もうれしいな。 ・大切な友達だから、仲良くしたいな。</p> <p>○友達と仲良くするためには、どんなことが大切でしょうか。 ・友達が喜ぶことをする。 ・友達の気持ちを考えて行動する。 ・相手のことを思いやる。</p>	<p>・挿絵を掲示し、状況を整理することができるようにする。 ・家の様子を対照的に板書し、一人ぼっちの友達を思うみそさざいの気持ちを考えやすくする。</p> <p>・「そっとぬけだして」に着目させることで、うぐいす側のことも考えて行動しているところに気付くことができるようにする。 ・やまがらの家に行く理由を話し合わせることで、葛藤しながらも一人ぼっちの友達を思う考えへ変化したみそさざいの心情に気付くことができるようにする。</p> <p>★教師がやまがら役で役割演技を行い、相手の気持ちを考えて行動することの大切さや相手が喜んでくれることのうれしさに気付くことができるようにする。</p>
<p><終末> 3 これまでの自分について振り返る。</p> <p>4 説話を聞く。</p>	<p>○みそさざいのように友達のことを考えて行動したことや、こうすればよかったなということがありますか。 ・一人でいた友達に「いっしょに遊ぼう」と誘ってよかった。 ・けんかしたとき、すぐ謝ればよかった。</p>	<p>★これまでの友達関係について振り返りながら、友達と仲良くするためには、今後どんなことが大切なのかを具体的に考えることができるようにする。</p> <p>・本時で学習した友情、信頼の価値について振り返る時間を十分に確保し、発表し合うことで、友達の考えに触れる機会をもつとともに、今後の実践意欲に繋ぐことができるようにする。</p>

<評価の視点>

- ・友達のことを考えて行動すると互いがうれしい気持ちになることの大切さに気付くことができたか。
(道徳的価値理解の深まり)〈発表・ワークシート〉
- ・今後の生活で、友達の気持ちを考えて仲良く助け合っていこうとする意欲を高めることができたか。
(道徳的意欲の高まり)〈ワークシート〉

人権課題 子ども

よく考えて行動する



1 教科等 小学校4年 特別の教科 道徳

2 主題名 よく考えて行動する [A-(3) 節度、節制]

3 ねらいと教材

(1)ねらい よく考え、自らを節制し周りに流されることなく、適切な行動をしようとする態度を育てる。

(2)教材名 「いっしょになって、わらっちゃだめだ」(出典:東京書籍「新しい道徳4」)

4 主題設定の理由

(1)指導内容について

本主題は「よく考えて行動し、節度ある生活をする。」という内容項目を受けたものである。自分の置かれた状況についてよく考えて自らを節制し、自分も他の人も気持ちのよい生活を送ることの大切さについて考えを深めるようにしたい。そのために自らを節制し、自分自身で考えて度を過ぎることなく、節度ある生活をしようとする態度を育てたい。

(2)教材について

本教材は、ゆうじをからかっていることをいじめではないかと父に指摘され、主人公の「ぼく」がどうすればよいのかを悩んだ末、周りに流されず自分にできる行動をしたという物語である。「ぼく」は、ゆうじが友達から「サル」とよばれている時、他の友達とは同調せず、その場から立ち去ることを選ぶ。「ぼく」が自分で考えた上で、できることをしたところを中心場面として、注意するのではなく「ぼく」が黙って教室を出て行った理由について話し合わせる。そうすることで、自分の置かれた状況についてよく考え、節度ある生活を送ることが自他の快適な生活を守ることに繋がっていくことに気付かせたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自分の言動に責任をもち、人権の観点から自分の置かれた状況についてよく考えた節度ある行動をしようとする意志や態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと・・・★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導・援助の留意点
<p><導入></p> <p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○周りの人の考えや行動に流されてしまったことがありますか。</p> <p>・人の意見を聞くと、「そうかな」と思ってしまう。自分の意見に自信がない。</p> <p>・いけないと思っても、下校中に二列になってしまった。</p>	<p>・事前のアンケートの結果から、自分の課題として考えることができるようにする。</p>
<p>よく考えて行動することについて考えよう。</p>		
<p><展開></p> <p>2 教材文「いっしょになって、わらっちゃだめだ」を読んで「ぼく」の気持ちや行動の理由を話し合う。</p> <p>・ワークシートに記入する。</p> <p>・ペアで話し合う。</p> <p>・全体で話し合う。</p>	<p>○「ぼく」はゆうじが「サル」とよばれている時どんな気持ちでしょう。</p> <p>・かわいそうだな。</p> <p>・誰か止めてくれないかな。</p> <p>・困ったな。</p> <p>◎「ぼく」はなぜ直接注意せず、黙って教室を出て行ったのでしょうか。</p> <p>・一緒になって笑ったらかわいそうだから。</p> <p>・直接注意すると、代わりに被害にあうかもしれないから。それはいやだから。</p> <p>・それでも、何とかしたいから。</p> <p>・自分なりに考えて、周りに流されない行動を選ぼうと思ったから。</p> <p>○「ぼく」はゆうじを「サル」と呼ぶ声になくなってどんなことを考えているだろう。</p> <p>・みんなと同じ行動を取らなくてよかった。</p> <p>・笑っているからと言って、必ずしも楽しいわけではない。流されず、今後もよく考えて適切に行動したい。</p>	<p>・登場人物や状況を整理して板書することで、「ぼく」の視点で考えることができるようにする。</p> <p>★注意ができなかった理由や、黙って教室を出て行った理由を考えさせることで人間的な弱さにふれるとともに、周囲に同調せずによく考えて行動することの大切さに気付かせるようにする。</p> <p>★周りに流されずによく考えて行動する大切さを考えさせることで、自分だけでなくみんなにとっても気持ちよく生活することに繋がることを押さえるようにする。</p>
<p><終末></p> <p>3 これまでの自分について振り返る。</p> <p>4 説話を聞く。</p>	<p>○「ぼく」のように、自分でよく考えて行動したことや、こうすればよかったなということはありませんか。</p> <p>・友達の失敗を見て、傷つくと思ったので笑わずにいてよかった。</p> <p>・だめだと分かっていたが、友達と一緒に騒いだので、他のことをして静かにしたい。</p>	<p>・本時で学習した節度、節制の価値について振り返る時間を十分に確保し、発表し合うことで、友達の考えに触れる機会をもつとともに、今後の実践意欲に繋ぐことができるようにする。</p>

<評価の視点>

- ・よく考えて行動することの大切さについて、自分なりの考えをもつことができたか。
(道徳的価値理解の深まり) <発表・ワークシート>
- ・自分の生活を振り返り、今後の生活に生かそうとする意欲を高めることができたか。
(道徳的意欲の高まり) <ワークシート>

人権課題 インターネットによる人権侵害

よりよく使うインターネット



1 教科等

小学校5年 学級活動

内容(2)イ よりよい人間関係の形成

2 題材設定の理由

SNSへ投稿する際、配慮に欠けた表現を書き込んだことで、他人を傷つけてしまったり、ネットワーク通信の可能なゲームを使用する際、言葉遣いが乱暴になりトラブルになったりする事例があった。また、校内においてもGoogle Classroomに自分の思いや意見を書き込む際、不適切な書込みが見られたこともあった。

そこで、この教材を通して、インターネット上の適切なコミュニケーションへの関わり方、特にメッセージを書き込む際に大切なことについて、相手の立場に立って考えることができるようすることで、相手の気持ちを尊重しようとする意欲・態度を養うとともに、投稿してよい内容かどうかを判断する力と適切な自己表現等を可能にするためのコミュニケーションスキルを身に付けさせたい。

3 評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
インターネット上のコミュニケーションにおける特性や課題について理解している。	相手の気持ちを尊重した上で、自分の思いの適切な伝え方について考えたことを実行している。	自分とインターネットとの関わり方について振り返りながら、情報発信者として意欲的に相手のことを考えようとしている。


4 事前指導

	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
○月○日	インターネットの使い方に関するアンケートを行う。	児童がインターネット上で自分はどのようにコミュニケーションを行っているのか意識できるようにする。	自分とインターネットとの関わり方について振り返ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・ワークシート)
○月△日	事前アンケートの結果をもとに、自分たちのインターネットとの関わり方を知ったり、資料から情報モラルについて理解したりする。	インターネット上で問題になっている事例(メッセージアプリ内の悪口や仲間外れ、なりすまし投稿など)について取り上げることで、問題意識を高めることができるようにする。	インターネット上のコミュニケーションにおける特性や課題について理解している。 【知識・技能】 (発言・ワークシート)

5 本時(本実践)と人権教育

インターネット上の適切なコミュニケーションについて考え、自他の権利を尊重しようとする意欲や態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

インターネット上の適切な自己表現のためのコミュニケーションについて考え、実践することができる。
(技能的側面)

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
<p>〈導入〉</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○インターネットの活用は情報の共有や感動の分かちあいに役立つことを押さえる一方で、SNS への書込みのモラルが課題になっていることに気付かせ、本時のめあてをつかむことができるようにする。</p>	
<p>インターネット上にメッセージを書き込む時には、何に気を付けたらよいだろう。</p>		
<p>〈展開〉</p> <p>2 例示された書込みをもとに、適切な書込みと不適切な書込みについて考える。</p>	<p>○ネコの絵に対するそれぞれの書込みについて適切かどうか考えさせる。また、その理由も考えさせる。</p> <div data-bbox="453 763 1002 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ネコの絵です。 自由にコメントしてね！！</p>  </div> <div data-bbox="453 1155 1002 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> ① うまくかけていると思います ② 上手ですね ③ 顔はいいですね ④ 顔、かわいいけど、体が面白いww ⑤ カーワーイーイー ⑥ なんてやねんww </div>	
<p>3 自分の意見と友達の見解を比較しながら話し合うことによって考えを深める。</p>	<p>○端末を使って、①～⑥の書込みに対する児童の考えを「適切」、「不適切」、「なやむ」の円グラフとして電子黒板上に表示することによって、クラス全体の考えを視覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>★④の書込みについて「適切」、「不適切」、「なやむ」のそれぞれの立場から議論を行うことによって、人によって感じ方や考え方が異なる点に気付いたり、情報の発信者として他者の価値観を尊重することの大切さについて考えたりすることができるようにする。</p> <p>★事前のアンケート結果から、文字だけのやりとりのために誤解が生じやすかったり、匿名性があるために相手に配慮を欠いた態度になったりしがちになるなどの、インターネットの特性を理解しながら「より慎重に言葉を選ぶことの必要性」について考えることができるようにする。</p>	<p>・相手がどう受け取るかを想像し、より慎重に言葉を選びその影響について考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・記述)</p>

<p>インターネット上にメッセージを書き込む時には、人によって感じ方がちがうことを意識して、より慎重に使う言葉を選ばなければならない。</p>		
<p>〈終末〉 4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○「インターネット上に書き込む際に気を付けなければならないこと」について、これからどうしていくかを、これまでの生活と結びつけて、具体的に考えることができるようにする。</p> <p>○次時の学習では、実際に端末を使って書込みの体験を行うことを伝えることによって、児童の実践に結びつけようとする意欲を高めることができるようにする。</p>	<p>・相手の気持ちを尊重した上で、自分の思いの適切な伝え方について考えたことを実行しようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>

7 事後指導

	児童の活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
○月○日	学習したことを生かして、インターネット上の書込みの体験を行い、自分自身の行動を振り返る。	これまでの学習を振り返り、自分とインターネットとの今後の関わり方について考えを深めことができるようにする。	相手の気持ちをよく考えた上で、自分の思いの適切な伝え方について考えたことを実行している。 【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)

パラリンピックから 共生社会について考える



1 教科等

中学校2学年 特別の教科 道徳

2 主題名

パラリンピックから共生社会について考える [B-(9) 相互理解、寛容]

2 ねらい

障害のある人を支援する立場に立って障害のある人の気持ちを考え、自分の意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重することを通して、いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、多様性を認め、共に生きようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

本主題は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」という内容項目を受けたものである。

東京2020パラリンピック開催に伴い、障害者スポーツに対する関心が高まる中、選手や選手を支える人たちを取り上げることで、障害のある人たちが、周りの人たちとの関わりの中でどのような経験をし、何を感じてきたのかということを理解し、人と接する上で大切なことに気づき、自分の周りにいる人たち一人一人の個性を認め、互いを理解し、共に生きようとする生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

4 他の教育活動との関連等

- (1) パラリンピックを観て、競技の種類や工夫等について知る。(保健体育科)
- (2) パラリンピックの歴史、意義、選手の思いを知る。(総合的な学習の時間)
- (3) ブラインドウォークを体験する。(総合的な学習の時間)
- (4) パラリンピックサポーターの思いを知り、人との関わりや自分の生き方について考える。

(特別の教科 道徳)【本時】

5 本時と人権教育

- 多様性を認め、共に生きようとする開かれた心と態度を育てる。(価値的・態度的側面)
- ブラインドウォーク体験を踏まえ、ガイドランナーとパラマラソンランナーとの関わり方を学ぶことで、他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能を育てる。

(技能的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと…★

時	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>1 ブラインドウォークの感想を紹介する。</p> <p>2 伴走ロープを見て、何に使うものか考える。</p>	<p>・ブラインドウォークは怖かった。</p> <p>・誰かの助けが必要。</p> <p>○これは何の道具でしょう。また何と呼ばれているでしょう。</p>	<p>・自分一人では難しく周りの支えが必要というような感想を提示する。</p> <p>・伴走ロープを見せながら説明をする。</p>
<p>ガイドランナーがパラマソンランナーと関わるときに大切にしていることは何だろう。</p>			
展開	<p>3 視覚に障害のある選手に、必要な支援を考える。</p> <p>4 グループで意見を共有し、全体に発表する。</p> <p>5 パラマソンランナーである道下さんの動画を視聴し、ガイドランナーの気持ちや思いを考え、話し合う。</p>	<p>★視覚に障害のある人がマラソンをする時にはどんな支援が必要だと思いますか。</p> <p>・手をつないで走る。</p> <p>・声をかけて指示をする。</p> <p>・不安にならないように励ます。</p> <p>○お互いの意見をグループで紹介しましょう。</p> <p>◎ガイドランナーの堀内さんはどんな思いで道下さんを支援していたと思いますか。</p> <p>・自分も一緒に金メダルが取りたい。</p> <p>・道下さんの目になりたい。</p> <p>・道下さんの夢を叶えたい。</p> <p>・金メダルをとることは自分の夢になった。</p> <p>○伴走ロープが絆ロープと呼ばれる理由は何だと思いますか。</p>	<p>[ブレンストーミング]</p> <p>・ブラインドウォーク体験を思い出させ、個人で自分の考えを付箋に記入させる。</p> <p>・付箋を支援の方法別に分類し模造紙に張り、話し合うことで支援には様々な方法があることに気付かせる。</p> <p>・ガイドランナーの思いに注目して視聴させる。</p> <p>・伴走ロープが絆ロープと呼ばれていることを確認し、そこに込められた思いを想像させる。</p>

	6 本時の学習を通して、感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。	○今日の道徳の学習で考えたことを通して、周りの人とどんな思いで接していきますか。またどんなことができますか。 ・相手の立場で考える。 ・自分にできることをやっていく。 ・お互いに個性を認め合う。	★生徒の感想や考えを踏まえすべての人が偏見や差別を持たず、必要な支援をしながら、共に生きていくことが大切であることに気付かせる。
終末	振り返り(ワークシート)		・東京パラリンピックのハイライト動画を視聴させる。

【 評価の視点 】

- ・それぞれの個性や立場を尊重し、多様性を認め、共に生きようとする大切さに気付くことができたか。 〈発言・ワークシート〉
- ・他者の意見を聞いて自分との共通点や差異を認め、自分の思いや考えを発言することができたか。 〈ワークシート〉

【ワークシート】

東京オリンピック・パラリンピックを観よう!!
()年()組()番 名前()

・東京オリンピックを観て、感動した場面と、その時感じたことを書いてみましょう。

場面:

感じたこと:

・東京パラリンピックで観た競技の中で、その競技の工夫を書いてみましょう。

① 競技:

工夫:

② 競技:

工夫:

・東京パラリンピック競技をできるだけ書いてみましょう。

・パラリンピックを観て感じたことを書いてみましょう。

「パラリンピックから共生社会について考える」
()組 ()番 名前()

めあて

1. 堀内さんはどんな思いで蓮下さんのサポートをしていたと思いますか。

(自分の考え)

(みんなの考え)

2. これから周りの人とどんな思いで接していきますか。また、どんなことができますか。

【振り返り】

① パラリンピックの歴史や意義を知り、障がいのある人の気持ちに寄り添うことができた。(A ・ B ・ C)

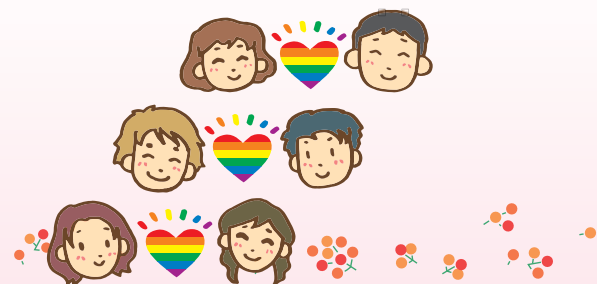
② 自分と他人との違いを個性として認め、共に生きる大切さを感じることができた。(A ・ B ・ C)

③ 他者に対して偏見や差別を持たず、お互いを理解するための言葉かけや行動をしていきたいと思う。(A ・ B ・ C)

※今日の授業で感じたこと、考えたことなど書きましょう。

人権課題 性的少数者

性の多様性から学ぶ



1 教科等

中学校 3 学年 特別の教科 道徳

2 主題名

性の多様性から学ぶ [C-(11) 公正、公平、社会正義]

3 ねらい

性の多様性を理解し、性的マイノリティについて考え、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない誰もが過ごしやすい共生社会を実現しようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

本主題は「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」という内容項目を受けたものである。

近年、性的マイノリティ(LGBT)に対する関心が高まっている。日本においても、パートナーシップ制度を導入する自治体が増えるなど、性的マイノリティへの理解が進んでいるが、偏見や差別が解消されていないのが現状である。性的マイノリティが直面している人権問題や社会問題を取り上げることで、問題解決に向けての課題や今私たちができることは何かに気付かせたい。また、性的マイノリティの立場に立って考えることで、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現のために様々な視点で行動できる生徒の育成を目指したい。

4 他の教育活動との関連など

- (1) 性の多様性についての講演会を聞き、ワークショップ(講師 NPO法人レインボーハート okinawa 理事長 竹内清文氏)を体験する。(総合的な学習の時間)
- (2) 性の多様性について考える。(総合的な学習の時間)
- (3) 性的マイノリティが自分らしく生きられる社会について考える。(特別の教科 道徳)

【本時】

5 本時と人権教育

多様性を認め、共に生きようとする開かれた心と態度を育てる。(価値的・態度的側面)

6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと…★

時	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 性の多様性について学習したことの振り返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ LGBT、SOGI (性的指向・性自認) の意味について確認する。
	<p>性的マイノリティが自分らしく生きるために大切なことはどんなことだろう。</p>		
展開	<p>2 動画の各場面を見て登場人物の場面ごとの心情の変化について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ななが、かすみに告白したシーン。 ・ かすみが LGBT をテーマにした劇をしたいことを部員や教頭先生に伝えるシーンと「あひるの子」の劇のシーン。 ・ ななが、かすみに対して謝るシーン。 	<p>○ななは、かすみに告白したとき、どのような気持ちになったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カミングアウトしてしまった。 ・ 友達関係が崩れてしまう。 ・ 嫌われたかもしれない。 <p>○ななは、かすみが作った「あひるの子」の劇を見て、どう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私の気持ちに向き合おうとしている。 ・ みんなに伝えてくれてうれしい。 ・ 終わったらかすみに謝ろう。 <p>○ななは、かすみに対して謝ったとき、どのような気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇をしてくれて嬉しかった。 ・ 逃げてごめんなさい。 ・ 向き合ってくれてありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権啓発ショートムービー「りんごの色」を場面ごとに止めて発問する。 ・ 机間指導の中で発表者を決めておくことで、多面的・多角的な考え方を共有できるようにする。 ・ かすみが LGBT の勉強会に参加し、LGBT について学んだことによって、かすみの考えが変化したことを押さえる。 ・ 竹内清文氏 (NPO法人レインボーハートokinawa理事長) の講話やワークショップで出てきた内容を想起させる。
	3 誰もが過ごしやすい学校とはどんな学校か考え、全体で共有する。	<p>◎性的マイノリティが「自分らしく」生きることができ学校や社会にするために、何ができると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な性について正しく理解する。 ・ 相手のことを考えて行動する。 ・ 否定したり、差別したりしない。 ・ 男女共用トイレを作る。 ・ 接し方を変えず人の気持ちを大切に 	<p>★ジャムボードに自分の意見を入力させ、ワークシートに書かせる。班で意見を共有し、班ごとに発表させることで、多様性を認め、共に生きようとする開かれた心や態度について考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜそう考えたのか、理由を言いながら、発言させる。 ・ 「自分らしく」生きるためには、多様な性について正しい理解のもと、互いの違いを認め合うことが大切だと捉えさせる。
	4 教師の説話を聞く。		
終末	振り返り(ワークシート)		<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに書いた内容を数人に発表させる。

【 評価の視点 】

- ・それぞれの個性や立場を尊重し、多様性を認め共に生きようとする大切さに気付くことができたか。 〈ワークシート〉
- ・他者の意見を聞いて共通点や差異を認め、自分の思いや考えを発言することができたか。 〈発言・ワークシート〉

*人権啓発ショートムービー「りんごの色」

URL https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00004.html

【ワークシート】

「性的マイノリティが自分らしく生きるためには」

() 組 () 番 名前 ()

めあて

1. ななは、かすみに告白したとき、どのような気持ちになったと思いますか。

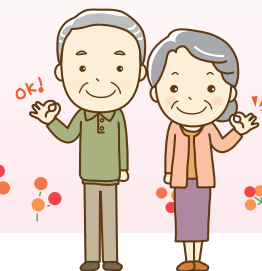
2. ななは、かすみの作った「あひるの子」の劇を見てどう思いましたか？

3. ななは、かすみに対して謝った時、どのような気持ちだったと思いますか。

4. 性的マイノリティが「自分らしく」生きることができる学校や社会にするために何ができると思いますか。【ジャムボード】

今日の授業で感じたこと、考えたことなど書きましょう。

地域の高齢者が 住みやすい社会を考える



1 教科等 高等学校2年 普通科 総合的な探究の時間(「行学」)

2 単元名 「地域の高齢者が住みやすい社会を考える」

3 指導上の立場

○単元(題材)観

高齢者をめぐっては、年齢を理由に社会参加の機会を奪われたり、親族から虐待を受けたり、地域から孤立をしたりするといった、高齢者の人権が侵害されるような問題が発生している。このような問題を解決し、高齢者が住み慣れた地域で生活し続け、若い世代とともに地域社会の様々な活動に参加できるような社会環境づくりを行うことが重要である。

総合的な探究の時間を通して、高齢者の人権問題に関する理解を深め、さらに高齢者を含めたすべての人が地域社会で暮らしやすくなるような提案ができる人権感覚を持った生徒の育成を目指している。

○本単元(題材)で工夫する点や手立て

生徒は事前に社会福祉協議会による「高齢者の人権課題」というテーマの講義を受け、地域に住んでいる高齢者の現状をある程度理解している。また観光・教育・環境防災・医療・福祉等の分野に分かれて地域課題の解決に取り組む中で、福祉分野の生徒は高齢者福祉の専門家による助言を受けながら、高齢化が進む地域でフィールドワークを行い、主体的に課題解決の提案ができるような活動を行った。このことを踏まえて、本時は第二次で作成した課題解決の提案(仮提案)を「高齢者の人権」の視点で改善する活動を実施する。

4 単元の目標

○「高齢者の人権」をグループで考察し、問題点を整理して提案を改善することができる。

[思考・判断・表現]

○地域社会の高齢者や、高齢者の生活の現状に着目することができる。

[主体的に学習に取り組む態度]

5 指導計画

主な活動	評価規準
第一次 課題設定と第1回フィールドワーク(以下FW)実施 第1時~第3時 計画・課題の設定 第4時~第5時 FW準備 第6時 第1回FW	◇地域社会の課題を解決するためにインターネットやFWを通じて積極的に情報を収集して提案することができる。[主体的に学習に取り組む態度]
第二次 第1回FWの振り返りと仮提案の発表 第1時 第1回FWの振り返り 第2時~第6時 仮提案の作成と発表準備 第7時 仮提案発表	◇FWを踏まえて地域課題を分析し、より具体的な提案を作成することができる。[思考・判断・表現] ◇作成した提案をスライド等で、他者に発表することができる。[思考・判断・表現]
第三次 第2回FWの実施と本発表に向けた準備 第1時 第2回FWの準備 第2時 第2回FW 第3時 本発表に向けて提案の改善(本時) 第4時~第6時 本発表に向けて提案の改善 第7時 本発表 第8時 本発表の振り返り	◇第2回FWで学んだことをまとめることができる。[知識・技能] ◇本発表に向けて、「高齢者の人権」の視点で提案を改善することができる。科[思考・判断・表現] ◇本発表で、今までの学習を踏まえた提案をスライド等で発表することができる。[知識・技能]

6 本時と人権教育

高齢者が暮らしやすい社会を考えることを通して、自他の価値を尊重しようとする態度を養う。

[価値的・態度的側面]

7 本時の目標

「高齢者の人権」の視点から、課題解決の提案を改善することができる。〔思考・判断・表現〕

8 本時の展開

人権教育の視点から特に重要なこと…★

学習活動	教師の指導・支援上の配慮事項など	評価規準、観点、評価方法
<p>〈導入〉</p> <p>1 本時の目標や内容を確認する。</p> <p>2 福祉分野の生徒が提案を発表する。</p>	<p>○本時は課題解決の提案を「高齢者の人権」の視点で改善すると伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題解決の提案を「高齢者の人権」の視点で改善してみよう</p> </div> <p>○なぜ「高齢者の人権」の視点で改善するのか次の2点について説明する。</p> <p>①「行学」の目的： 地域課題の発見・探究・解決活動を通して誰もが住みやすい地域にすること。</p> <p>②全分野※の共通点：高齢化が進んでいる点 ⇒①・②より「高齢者の人権」の視点は必須であることを理解させる。</p> <p>★高齢者が住みやすい地域に必要な次の3要素を資料で示し、「高齢者の人権」を意識させる。</p> <p>①高齢者に対する虐待がない ②自立支援の仕組みがある ③活躍の場がある</p> <p>○事前に福祉分野の生徒に提案を「高齢者の人権」の視点をふまえて改善させておく。</p>	<p>評価規準、観点、評価方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>※分野 観光・教育・ 環境防災・ 医療・福祉など</p> </div>
<p>〈展開〉</p> <p>3 提案を改善する。</p> <p>4 改善した提案を発表する。</p>	<p>★提案を改善するのに適している要素を高齢者が住みやすい地域に必要な3要素から1つ選ばせ、選んだ理由をワークシートに明記させる。</p> <p>○選んだ要素を踏まえて、提案をどのように改善すればよいかグループで話し合い、意見をまとめさせる。</p> <p>○発表を聞きながら、他のグループの提案で参考になる部分を記録するように指示する。</p>	<p>・「高齢者の人権」の視点で問題点を整理して提案を改善することができる。 〔思考・判断・表現等〕〈ワークシート〉</p>
<p>〈まとめ〉</p> <p>5 本時のまとめをする。</p>	<p>○本時の学習を通して気づいた事や、今後自分たちの分野の提案を改善するときに必要なと思う要素をワークシートに記述させる。(今後の視点の例として、資料「主な人権課題」を提示する。)</p>	

総合的な探究の時間ワークシート

()年 ()番 氏名()
「地域の高齢者が住みやすい社会を考える」

目標：課題解決の提案を「高齢者の人権」の視点で改善してみよう

1 自分たちの班の提案を「高齢者の人権」視点で改善するのに適している要素は、次のうちどれだろうか。

- ① 高齢者に対する虐待がない ② 自立支援の仕組みがある ③ 活躍の場がある

選んだ要素→()

理由：

2 1で選んだ要素を用いて提案を改善してみよう。

改善前の提案	改善後の提案

○他班の発表で参考になったこと

--

3 今日の学習を通して気づいたことや、今後提案を改善するのに必要だと思う要素(視点)を書いてみよう。

--

4 補足資料

(1)「高齢者の人権」の要素について 参考：『令和2年度版人権教育研修テキスト』

① 高齢者に対する虐待がない

⇒高齢者虐待は身体的虐待・心理的虐待、経済的虐待、性的虐待、介護や世話の放棄・放任に分類されます。

養護者(介護者)による高齢者に対する虐待が増加していますが、介護により心身ともに疲労し、追い詰められていることが要因となっていることもあります。高齢者の虐待を防ぐためには、介護負担を軽減する策をとること、また、できるだけ早く市町村の地域包括支援センターなどに相談し、支援を受けることが大切です。

② 自立支援の仕組みがある

⇒高齢者の多くは、住み慣れた地域や家庭で、健康で安心して暮らせる生活を望んでいます。そのため、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を進めるとともに、成年後見人制度をはじめとした権利擁護制度の活用など、高齢者の人権に配慮した自立支援を促進することも大切です。

③ 活躍の場がある

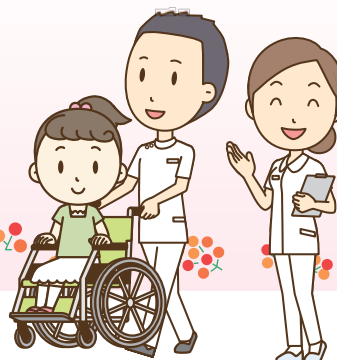
⇒勤労意欲がある高齢者が元気に働くことができ、ボランティア活動などにも積極的に参加できる社会にしていくことが必要です。また、高齢者の知識と経験を生かした社会参加と他世代との交流を進めることも大切です。

(2)今後の視点の例として…「主な人権課題」

(「令和3年版人権教育・啓発白書」(法務省・文部科学省)から)

- ①女性 ②子ども ③高齢者 ④障害のある人 ⑤部落差別(同和問題)
- ⑥アイヌの人々 ⑦外国人 ⑧HIV感染者 ⑨ハンセン病患者・元患者・その家族
- ⑩刑を終えて出所した人 ⑪犯罪被害者等 ⑫インターネットによる人権侵
- ⑬北朝鮮当局によって拉致された被害者等 ⑭ホームレス問題 ⑮性的指向・性自認
- ⑯人身取引(トラフィッキング) ⑰東日本大震災に起因する人権問題

子どもの権利を尊重した 看護について



1 教科等 専攻科2年生 小児看護学概論

2 単元名 小児看護における倫理(医学書院)

3 指導上の立場

○単元(教材)観

1994年わが国で「子どもの権利条約」が批准されて以降、子どもの権利保障の必要性が認識されてきた。看護においては、日本看護協会が作成している小児看護領域の看護業務基準(1999)の中で、子どもをひとりの人間として尊重するとともに、その権利が常に保障され、守られるように看護にあたることが示されている。

子どもと接する体験が少ない生徒が、子どもを尊重する看護について考える機会として、保育園・小児病棟での臨地実習は重要な役割を占めており、子どもの情緒分化の理解や、発達段階に応じた判断力を育成することにつながると考えられる。

○本単元(題材)で工夫する点や手立て

生徒は臨地実習中に美作大学生生活科学部児童学科教員より講義を受け、子どもの権利について歴史から学びを深めるとともに、子どもの権利の擁護者としての意識を高めている。また保育園と小児病棟実習それぞれで、生徒が“子どもの権利を守ることができた場面”と、“子どもの権利が守られていると感じた場面”についてレポートにまとめ、実習終了後に提出するよう指示した。

本時では臨地実習を通して学んだ子どもとの関わりやケア内容を、子どもの権利条約や小児看護領域の看護業務基準と関連づけて振り返らせることにより、看護の職業倫理について理解を深めさせるとともに、子どもの人権や権利擁護のために自分にできることは何かを考えさせたい。

4 単元の目標

○子どもの権利を正しく理解した上で、子どもの権利擁護や子どもの最善の利益に関する知識を身につけている。

[知識・技能]

○看護の職業倫理をふまえて、臨地実習で学んだ子どもとの関わり方やケアの場面を振り返り、子どもの権利を守るために必要な看護について考慮し、その内容を具体的に表現できる。

[思考・判断・表現]

○人権や子どもの権利について関心を持つとともに、看護の職業倫理をもとに、基本的人権を持つ人間として子どもを尊重した関わりについて意欲的に学習しようとしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

5 指導計画

主な学習活動	評価規準
第一次 小児看護における倫理 第1時 子どもの権利 第2時 医療現場でおこしやすい問題と看護	◇子どもの権利と医療現場に起こりやすい問題の特徴を理解するとともに、倫理原則をふまえたケアの実践を身に付けている。[知識・技能]
第二次 子どもの権利 第1時 「子どもの権利」講演会 講師:美作大学生生活科学部児童学科 准教授 蜂谷 俊隆氏	◇子どもの権利について歴史から学びを深め、正しい知識を身につけるとともに、権利や権利擁護の重要性について表現することができる。[思考・判断・表現]
第三次 臨床場面で大切にしたい子どもの権利と、子どもの権利を守るために必要な看護 第1時~第2時 臨地実習の振り返り 指導・助言者 ・美作大学生生活科学部児童学科 准教授 蜂谷 俊隆氏 ・津山中央病院 小児病棟指導看護師 河藤 奈々氏	◇臨地実習場面を振り返りながら、主体的に子どもの人権について思考を深め、子どもの権利を守るために必要な看護についてグループで考えをまとめ発表することができる。[思考・判断・表現] ◇日常の中や看護の場面において、子どもの権利を尊重した行動の実践意欲を高めることができる。[主体的に学習に取り組む態度]

6 本時と人権教育

子どもの権利を守るために必要な看護を考えることで、人権を尊重しようとする意欲や態度を育成する。
[価値的・態度的側面]

7 本時の目標

看護の職業倫理をふまえた上で、子どもの権利を守るために必要な看護とはどのようなものか考察し、具体的に示すことができる。[思考・判断・表現]

8 本時の展開

人権教育の視点から特に重要なこと…★

学習活動	教師の指導・支援上の配慮事項など	評価規準、観点、評価方法
<p><導入></p> <p>1 これまでの学習を振り返り、本時の内容を確認する。</p>	<p>○子どもの権利を意識して臨地実習に臨めていたことにふれる。</p> <p>○臨地実習での学びをグループで共有し、話し合いを通して、思考を深めていくよう指示する。</p>	
<p>子どもの権利を守るために必要な看護とはどのようなものか示すことができる。</p>		
<p><展開></p> <p>2 臨地実習において自分が“子どもの権利を守ることができた場面”と、“子どもの権利が守られていると感じた場面”を整理する。</p> <p>3 臨床場面で大切にしたい子どもの権利と、その権利を守るために必要な看護や関わりを考える。</p> <p>4 グループでまとめた内容を発表する。</p> <p>5 講師の指導・助言を聞く。</p>	<p>○グループで、KJ法を用いて同じ意味・内容ごとにまとめさせる。</p> <p>○まとめたものを、子どもの権利条約と小児看護業務基準に照らし合わせて分類するよう指示する。</p> <p>○臨床場面で大切にしたい子どもの権利を個人で3つ考えワークシートに記入させ、グループで共有するよう指示する。</p> <p>○グループとして最も大切にしたい子どもの権利を1つ選び、選んだ理由について話し合わせ、ワークシートに記入するよう指示する。</p> <p>★思考を深めるためにクラゲチャートを用いて、グループで子どもの権利を守るために必要な看護や関わりを話し合い、意見をまとめさせる。</p> <p>○他のグループの発表を聞きながら、参考になる部分をワークシートに記録するよう促す。</p> <p>○生活の中や臨床場面での子どもとの関わりや必要な看護について、人権の視点から指導助言をしていただくことを伝える。</p> <p>・美作大学生生活科学部児童学科 准教授 蜂谷 俊隆 氏</p> <p>・津山中央病院 小児病棟指導看護師 河藤 奈々 氏</p>	<p>・看護の職業倫理をふまえた上で、子どもの権利を守るために必要な看護について考察し、具体的に示すことができる。[思考・判断・表現]</p> <p>〈ワークシート〉 〈思考ツール〉</p> <p>・日常の中や看護の場面において、子どもの権利を意識した行動の実践意欲を高めることができる。[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>
<p><まとめ></p> <p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>○本時の学習を通しての気づきや学び、今後の生活の中や看護の場面で大切にしたいことをワークシートに記入し、全体で共有する。</p>	

◇参考文献

○白木裕子、松澤明美、津田茂子.小児看護学実習における看護学生が捉えた子どもの権利.日本小児看護学会誌 Journal of Japanese Society of Child Health Nursing Vol.23 No.1 p.22-28, 2014

○橘 則子、宮城由美子、吉川未桜.小児看護実習で看護学生が学んだ子どもの権利を尊重した関わりについて.福岡県立大学看護学部紀要 8(1), 19(19)-25(25), 2011

ワークシート

()年()番氏名()

目標:子どもの権利を守るために必要な看護とはどのようなものか示すことができる

1. 臨地実習で、“子どもの権利を守ることができた場面”と“子どもの権利が守られていると感じた場面”についてグループでまとめてみよう。
 - 1) KJ法を用いて同じ意味内容ごとにまとめよう。
 - 2) まとめた内容を「子どもの権利条約」と照らし合わせて分類しよう。
 - 3) さらに、「小児看護業務基準」と照らし合わせて分類しよう。

2. 臨床場面で大切にしたい子どもの権利について、個人で3つ挙げよう。

① ()条

② ()条

③ ()条

グループとして最も大切にしたい子どもの権利を1つ選び、選んだ理由についても話し合おう。

()条

理由:

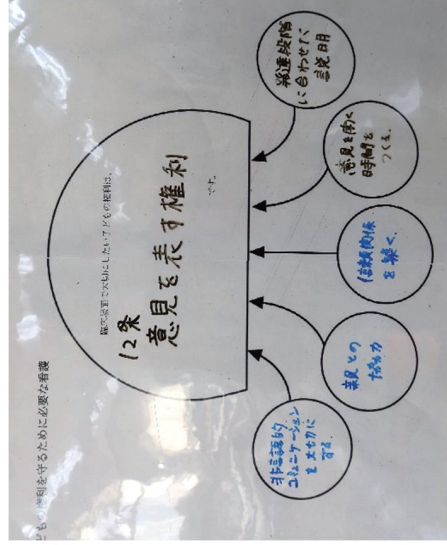
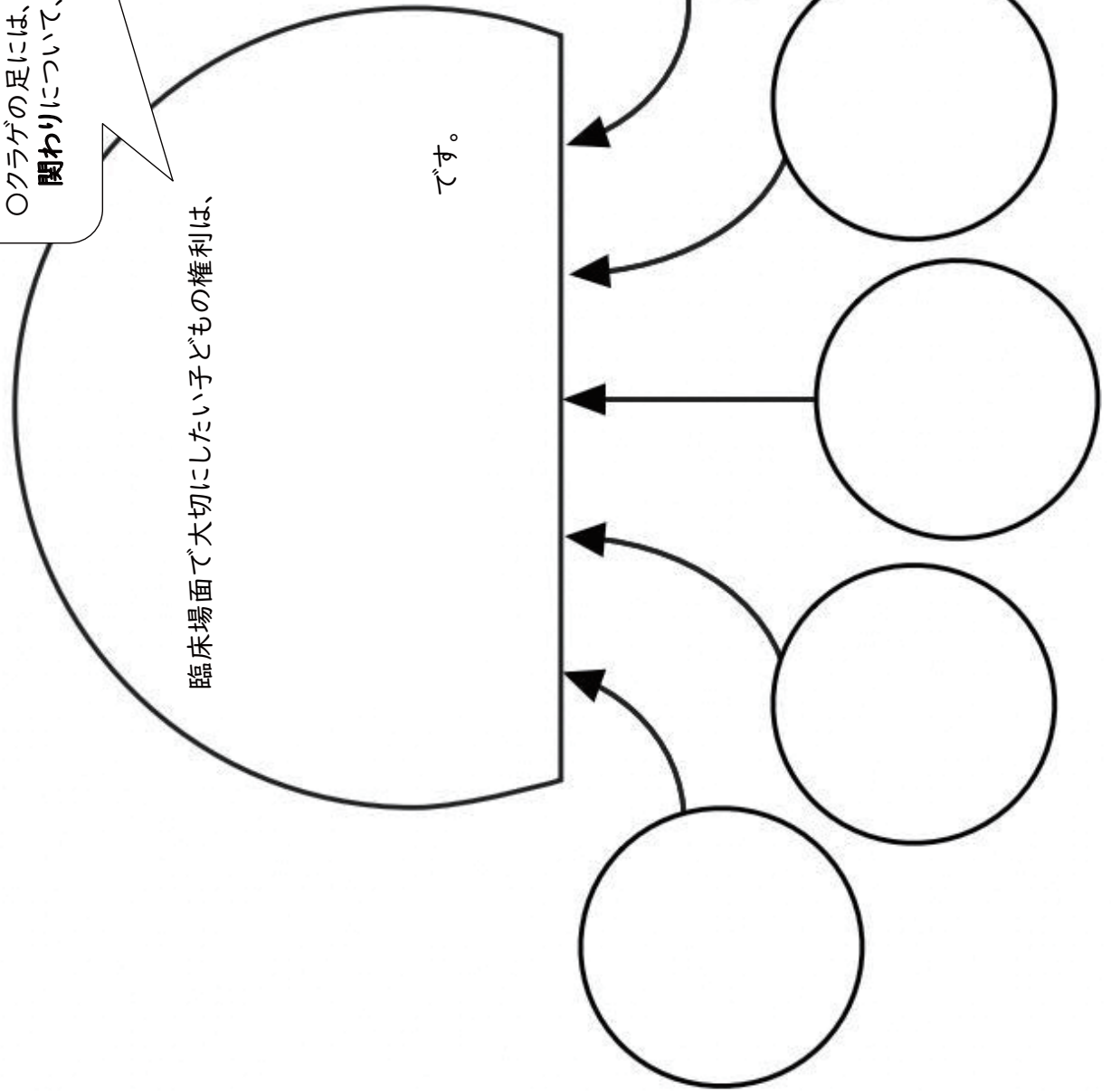
3. クラゲチャートを用いて、子どもの権利を守るために必要な看護や関わりについて具体的に考えよう。
他グループの発表で参考になったこと

4. 本時の学習を通しての気づきや学び、今後の生活の中や看護場面において大切にしたいことを書こう。

クラゲチャート

子どもの権利を守るために必要な看護

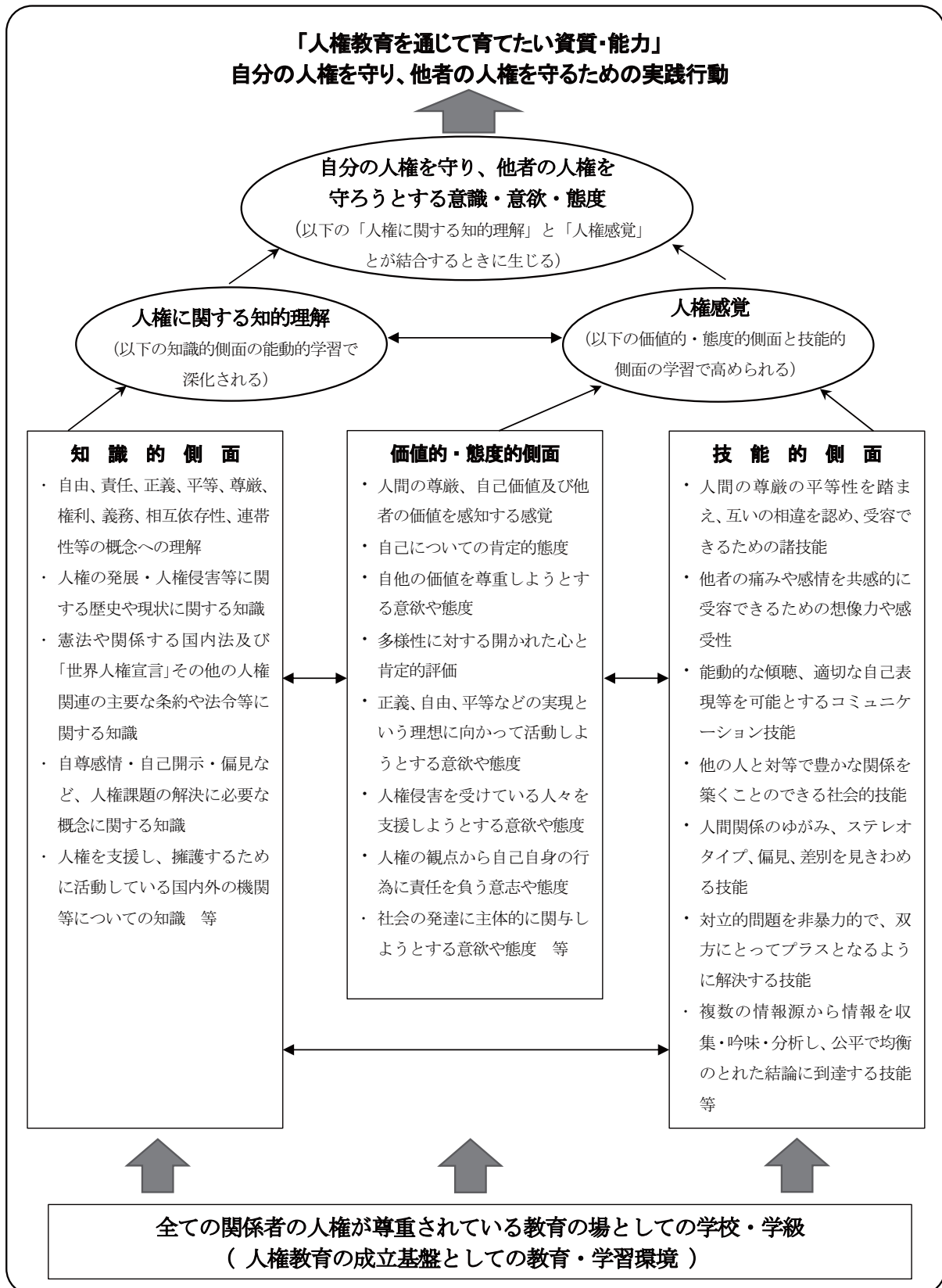
- クラゲの頭には、臨床場面で大切にしたい子どもの権利
- クラゲの足には、その権利を守るために必要な看護や関わりについて、具体的に書いてみよう。



実際に授業で書かれたもの

【 参 考 】

この図は、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」で人権教育を通じて育てたい資質・能力を示したものです。人権学習実践事例集の「本日の展開、学習指導過程、本時の展開 人権教育の視点から特に重要なこと…★」は、図中の3側面を踏まえています。



令和3年度人権学習充実拠点校事業 実践事例集

令和4年3月 発行：岡山県教育庁人権教育・生徒指導課
〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号
TEL：086-226-7612
FAX：086-224-2134
HP：<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/>